

宮崎市文化財調査報告書 第87集

宮崎市試掘・確認調査報告書



2011

宮崎市教育委員会

序 文

宮崎は、九州の東南部にあり、九州山地を背に、太平洋からの日の出を正面に見ることができる、まさに「日向（ひむか）」の地名に相応しい場所にあります。宮崎市は、その県庁所在地として、めざましい発展を続けています。しかし開発の一方で、地中に眠る貴重な遺跡が次第に失われてゆくのは残念なことです。

そのような中、宮崎市は埋蔵文化財を守ってゆくために、開発事業が周知の埋蔵文化財包蔵地内にある場合につきましては確認調査、また、包蔵地外でも埋蔵文化財が包蔵される可能性がある場合には試掘調査を行い、その結果を以って埋蔵文化財の保護について協議に取り組んで参りました。平成21年度、市内で行われた試掘・確認調査は50件に上ります。本書は、この一年間行ってきた試掘・確認調査の結果をまとめたものです。

埋蔵文化財は、将来にわたって残さねばならない貴重な財産です。地域に残された埋蔵文化財は、われわれに先人たちの知恵を語りかけ、郷土への愛情を育む機会となります。そうしたものに触れることは、心の発達につながり、教育のあるべき姿を示すことになるでしょう。今後も埋蔵文化財保護の取り組みを通して、宮崎の育んだ文化が広く知られ、郷土の発展の一助となることを祈念申し上げます。

平成23年3月

宮崎市教育委員会
教育長 二見俊一

例 言

1. 本書は、平成20年度（平成21年1月～3月）、及び平成21年度に宮崎市が行った、試掘・確認調査の報告書である。

2. 本書の作成は以下の体制で行った。

〈平成20年度（平成21年1月～3月）試掘・確認調査〉

調査主体 宮崎市教育委員会

調査統括	課 長	永井 淳生
	主幹兼文化財係長	山田 英嗣
調査担当	主任技師	金丸 武司
	主任技師	竹中 克繁
庶務担当	主 事	松崎 留美

〈平成21年度 試掘・確認調査〉

調査主体 宮崎市教育委員会

調査統括	課 長	永井 淳生
	副主幹兼文化財係長	富永 英典
調査担当	主任技師	金丸 武司
	主任技師	稲岡 洋道
庶務担当	主 事	松崎 留美

〈平成22年度 報告書作成作業〉

調査主体 宮崎市教育委員会

調査統括	課 長	田村 泰彦
	副主幹兼文化財係長	富永 英典
調査担当	主任技師	金丸 武司
	主任技師	稲岡 洋道
庶務担当	主 事	戸高 佑輔

3. 本書の執筆・編集は金丸と稲岡が分担して行った。

4. 調査で出土した遺物は、宮崎市生目の杜遊古館で保管されている。

目 次

第1章 宮崎市の試掘・確認調査	1
1. 概要	1
表1 平成20年度（平成21年1～3月）試掘・確認調査一覧	1
表2 平成21年度試掘・確認調査一覧	2
図1 平成20年度（平成21年1～3月）、平成21年度試掘・確認調査位置図	3
2. 個別説明	4～22

第1章 宮崎市の試掘・確認調査

1. 概要

宮崎市では、公共の開発事業について、試掘・確認調査が必要な事業に対し、事業課と協議を行い、事業の進捗に応じて実施してきた。また、民間の開発事業についても、埋蔵文化財の有無に関する照会を行い、必要な案件については、回答と共に試掘・確認調査への協力を依頼してきた。

その結果、平成20年度（平成21年1月～3月）は20件、平成21年度は50件の試掘・確認調査を実施した。第1図は試掘・確認調査の調査箇所的位置図である。宮崎市では、その調査結果を基に埋蔵文化財の保護について開発業者や事業担当課と協議を行い、必要に応じて本調査を行った。

本書では、平成21年度内に宮崎市が実施した試掘・確認調査の一部を紹介する。

表1 平成20年度（平成21年1月～3月）試掘・確認調査一覧

番号	場 所	試掘調査・確認調査	遺 跡 名	実 施 日	有無	開発主体	調査原因
a	芳 士	試掘調査		平成21年1月14日	無	民間	宅地
b	佐土原町下那珂	試掘調査		平成21年1月21日～23日	無	公共	動物園リニューアル
c	浮之城町	確認調査	浮之城第2遺跡	平成21年1月23日	無	民間	宅地
d	佐土原町西上那珂	確認調査	長谷遺跡	平成21年1月28日	無	公共	道路拡幅
e	島之内	試掘調査		平成21年1月29日	無	民間	宅地
f	佐土原町上田島	試掘調査		平成21年2月10日	無	公共	市街整備
g	下北方町塚原	確認調査	下北方遺跡群	平成21年2月13日	有	民間	宅地
h	下北方町塚原	確認調査	下北方遺跡群	平成21年2月16日	無	民間	個人住宅
i	佐土原町佐賀利	試掘調査		平成21年2月16日	有	公共	下水施設建設
j	佐土原町下田島	試掘調査		平成21年2月19日	無	民間	宅地
k	古村町江田原	確認調査	檜遺跡	平成21年2月24日	有	公共	進入道取付
l	池内町	試掘調査		平成21年2月26日	無	民間	宅地
m	下北方町塚原	試掘調査		平成21年3月3日	有	民間	宅地
n	佐土原町下田島	試掘調査		平成21年3月5日	無	民間	宅地
o	下北方町塚原	試掘調査		平成21年3月10日	有	民間	公民館建設
p	高岡町天ヶ城	確認調査	天ヶ城跡	平成21年3月16日	無	公共	公園整備
q	田野町南原	試掘調査		平成21年3月19日	無	公共	病院施設建設
r	高岡町高浜	確認調査	茶園掘遺跡	平成21年3月25日	無	公共	水道施設建設
s	古村町江田原	確認調査	檜遺跡	平成21年3月27日	有	公共	進入道
t	高岡町浦之名	試掘調査		平成21年3月30日	無	民間	宅地

表2 平成21年度試掘・確認調査一覧

番号	場所	試掘調査・確認調査	遺跡名	実施日	有無	開発主体	調査原因
1	吉村町今村	確認調査	今村前遺跡	平成21年5月15日	有	公共	土地区画整理
2	吉村町江田原	試掘調査		平成21年5月19日	無	公共	防火水槽建設
3	務島2丁目	試掘調査		平成21年5月20日	無	民間	宅地
4	宮脇町	確認調査	宮脇第2遺跡	平成21年5月25日	無	民間	店舗
5	高岡町飯田	確認調査	高岡飯田遺跡	平成21年5月28日～5月29日	無	公共	土地区画整理
6	下北方町塚原	確認調査	下北方道跡群	平成21年6月1日	無	民間	宅地
7	神宮西1丁目	試掘調査		平成21年6月2日	無	民間	共同住宅
8	田野町鹿村野	試掘調査		平成21年6月5日	無	公共	下水道施設建設
9	高岡町高浜	試掘調査		平成21年6月30日	無	公共	防火水槽建設
10	田野町南寺町	試掘調査		平成21年7月1日	無	公共	消防団倉庫建設
11	下北方町戸林	確認調査	下北方道跡群	平成21年7月6日	無	民間	宅地
12	塩路	確認調査	奈良衛相第1遺跡	平成21年7月7日～7月8日	無	公共	道路拡幅
13	下北方町戸林	確認調査	下北方道跡群	平成21年7月13日	無	民間	宅地
14	佐土原町下那珂	確認調査	竹ノ島第1遺跡	平成21年7月14日	無	公共	防火水槽建設
15	下北方町塚原	確認調査	下北方道跡群	平成21年7月15日	無	民間	宅地
16	下北方町花切	確認調査	下北方道跡群	平成21年7月21日～7月29日	有	民間	宅地
17	下北方町塚原	確認調査	下北方道跡群	平成21年7月29日	無	公共	消防団倉庫建設
18	下北方町大宮	確認調査	下北方道跡群	平成21年8月4日	無	公共	地域自治施設建設
19	吉村町下蔵	確認調査	下蔵遺跡	平成21年8月5日	有	公共	土地区画整理
20	下北方町花切	確認調査	下北方道跡群	平成21年8月11日～8月13日	有	民間	宅地
21	大瀬町楠木	試掘調査		平成21年8月13日	無	公共	道路拡幅
22	吉村町江田原	確認調査	鹽遺跡	平成21年8月27日	無	公共	武道場建設
23	吉村町下蔵	確認調査	下蔵遺跡	平成21年8月31日～9月1日	無	公共	土地区画整理
24	佐土原町西上那珂	試掘調査		平成21年9月4日	無	公共	道路拡幅
25	宮脇町	確認調査	宮脇第2遺跡	平成21年9月7日～9月8日	無	民間	社屋建設
26	佐土原町西上那珂	確認調査	下風敷第1遺跡	平成21年9月7日～9月8日	有	公共	道路拡幅
27	下北方町花切	確認調査	下北方道跡群	平成21年9月9日	無	民間	共同住宅
28	佐土原町上田島	確認調査	宮ヶ辻遺跡	平成21年9月14日～9月15日	有	公共	農業基盤整備
29	島之内	試掘調査		平成21年9月16日	無	民間	共同住宅
30	勝江	確認調査	勝江地区遺跡	平成21年9月17日	無	公共	農業基盤整備
31	佐土原町西上那珂	確認調査	五月田遺跡	平成21年9月28日	無	公共	道路拡幅
32	下北方町塚原	確認調査	下北方道跡群	平成21年10月1日	有	民間	個人専用住宅
33	本郷南方	試掘調査		平成21年10月2日	無	公共	地域自治施設
34	恒久2丁目	試掘調査		平成21年10月20日	無	民間	児童クラブ建設
35	田吉	試掘調査		平成21年10月21日	無	民間	携帯電話基地局
36	佐土原町西上那珂	確認調査	松山遺跡	平成21年10月23日	無	公共	道路
37	阿波岐原町	試掘調査		平成21年11月9日	無	公共	児童クラブ施設
38	佐土原町上田島	確認調査	古城第2遺跡	平成21年11月10日～11月11日	有	公共	農業基盤整備
39	佐土原町現王島	試掘調査		平成21年11月13日	無	公共	道路新設
40	吉村町下蔵	確認調査	下蔵遺跡	平成21年12月3日	無	公共	土地区画整理
41	佐土原町西上那珂	確認調査	松山遺跡	平成21年12月17日	無	公共	道路拡幅
42	加江田	確認調査	こどもの国遺跡	平成21年12月22日	無	公共	観光開発
43	佐土原町下田島	試掘調査		平成21年12月24日	無	公共	道路拡幅
44	佐土原町上田島	確認調査	宮ヶ辻遺跡	平成22年2月12日～2月18日	有	公共	農業基盤整備
45	下北方町花切	確認調査	下北方道跡群	平成22年1月25日～2月5日	有	民間	宅地分譲
46	佐土原町上田島	試掘調査	佐土原城跡	平成22年3月1日～3月5日	有	公共	公民館建設
47	佐土原町西上那珂	確認調査	下風敷第1遺跡	平成22年3月8日	無	民間	携帯電話基地局
48	吉村町江田原	試掘調査		平成22年3月11日	無	公共	武道場建設
49	新別所町	確認調査	麓2号墳	平成22年3月17日～3月30日	有	民間	公園整備
50	佐土原町上田島	試掘調査		平成22年3月25日	無	公共	道路拡幅

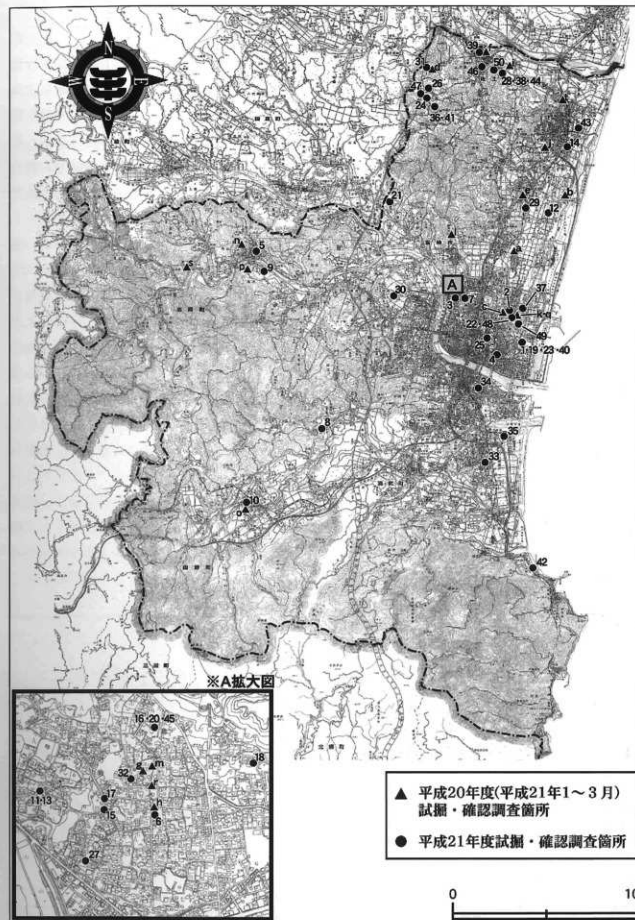


図1 平成20年度(平成21年1～3月) 試掘・確認調査箇所

3. 霧島町試掘調査

調査場所 霧島二丁目

調査期間 平成21年5月20日

調査原因 宅地建設

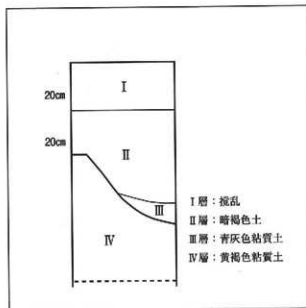
調査結果 埋蔵文化財なし

立地 調査地は、大淀川が南へと蛇行する左岸に当たる。予定地は、大淀川へと注ぎ込む小松川から僅かに高くなった微高地にある。この微高地は、周辺を通過しているも気付かない程度でしかないが、船塚古墳をはじめ、古墳時代以降の遺跡が点在する。今回は微高地の西端にあたるが、埋蔵文化財の有無を確認する事を目的に、開発に先立ち、確認調査を実施した。

調査結果 予定地の周囲はブロック塀で囲まれており、塀の向こうには民家が迫ることから、調査による影響のないよう、トレンチは境界から3m以上の間隔を空け、重機で掘削を行った。1.3m×4mで設定した最初のトレンチは20cmの瓦礫や砂利混じりの層を除去したところで暗褐色土を確認した（I層）。この層の堆積は20cmほどであり、層中には高原スコリアが疎らに混入するほか、焼土粒子や炭も確認されたが、遺物の混入は皆無であった。更に下位は黄褐色の粘質土による地山が確認されたが、この上面で掘えたところ幅約2m、深さ40cmを測る溝状の緩やかな落ち込みを検出した。埋土は基本的にII層の暗褐色土であり、上層がそのまま埋土に入り込んだ格好だが、下面は青灰色の粘質土が確認されたことから、小松川に向かって水を流していたと考えられる。検出面上部が高原スコリアの二次堆積層であることから、落ち込みは近世以降に形成されたと考えられ、検出面に堆積層が形成される前に一度に埋没したと考えられる。この落ち込みが溝である可能性を考え延長したところ、川下にあたるというのに深さは30cmと浅くなり、幅は50cmまで狭まっているなど、一定しない状況を確認した。II層で確認した焼土の存在から、近隣に埋蔵文化財がある可能性は否定できないものの、予定地内に埋蔵文化財は確認されなかった。



調査対象地 (1/3000)



土層柱状模式図

5. 高岡麓遺跡確認調査

調査場所 高岡町飯田

調査期間 平成21年5月28日～5月29日

調査原因 区画整理事業

調査結果 埋蔵文化財あり

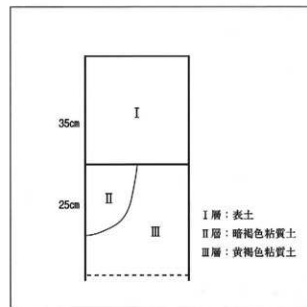
立地 当該地は大淀川左岸の低地上に立地する。高岡町の市街地中心部付近に当たる。周知の文化財包蔵地「高岡麓遺跡」の域内であり、これまでの発掘調査によって、近世、薩摩藩の外城として立ち並んだ武家屋敷ばかりでなく、近隣の高岡郵便局の発掘調査では、中世や古墳時代まで遡る遺物が出土され、包蔵地の推定時期幅が一気に広がった。今回の予定地は区画整理事業によって道路が建設される場所にあたる。この地点における確認調査は昨年度もを行っているが、その際に資材が置かれて調査出来なかった部分について、撤去後に確認したところ、地表面から石組みらしきものが検出されたことから、今回はその部分を重点に置き、改めて確認調査を行った。

調査結果 重機による侵入が不可能であったため、調査は人力で行った。南側のトレンチからは、地表面で加工された凝灰岩が数個並べて置かれている状況を確認した。隣接地で五輪塔や板碑などの石塔がまとめて廃棄された状況を確認したため、これが石塔の一部である可能性を考えた部分を深掘りしたところ、礫の底面は表土中であり、検出面と考えられる黄褐色の粘質土の上面より10cmほど浅いことを確認した。地権者の話では、戦後ここに建物があり、その入口に使われた石ではないかとのことであった。またこの作業中、地表面より掘り込まれた現代の攪乱層（ゴミ穴）も複数確認した。他のトレンチからは、暗褐色の粘質土が35cmも堆積しており、狭い面積ながら土層の堆積が不安定であることが予想された。このトレンチからは、地山を確認した黄褐色粘質土の面で、径20cm、深さの25cm柱も確認した。

出土遺物は近世にあたることから、事業地内は近世を中心とした遺構の広がりが予想される。



調査対象地 (1/3000)



土層柱状模式図

8. 鹿村野地区試掘調査

調査場所 宮崎市田野町鹿村野

調査期間 平成21年6月5日

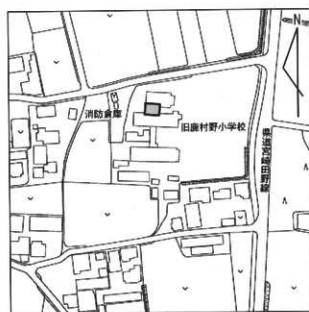
調査原因 水道施設建設

調査結果 埋蔵文化財なし

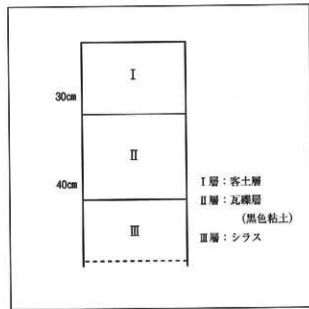
立地 田野盆地を流れる清武川は、北部で黒北側と合流しながらへアピン状に湾曲し清武市街地に流れてゆく。湾曲の外側は鹿村野、椎屋形、時屋、船引と台地が連なり、早期を中心とした縄文時代の一大遺跡集中地帯を形成する。今回事業地となった鹿村野小学校跡地は、鹿村野台地のほぼ中央に位置する。元地形は西から東に向かって下る傾斜面と考えられ、ズクノ山、前ノ原という埋蔵文化財包蔵地に挟まれていることから、当区域においても埋蔵文化財が分布する可能性を考え、開発に先立ち、事前の埋蔵文化財試掘調査を実施した。

調査結果 調査は人力で行い、事業地内に1m×1mのトレンチを設定したところ、近年校舎取り壊し後に客土を盛ったと考えられ、表土下からはシラスと黒色粘質土による擾乱層の分厚い堆積が検出された。この層を取り除くと、旧校舎取り壊し時に生じたと思われる、夥しい廃材を含んだ、非常に軽い黒褐色土が現れた。また、その下位の黒褐色土層は学校使用時と思われる非常に硬化した層が確認された。そしてその下位はシラスであり、遺物包含層であるロームは消失していた。トレンチは3ヶ所設定したが、堆積状況はいずれも同じであった。

事業地は、シラスが露出した崖に近いこともあり、予定地の包含層は小学校建設時に既に削平されたと考えられ、埋蔵文化財の残存は確認されなかった。しかしながら、鹿村野小学校西側の地形は丘陵を呈しており、埋蔵文化財包蔵地が存在する可能性があるため、今後も注意する必要がある。



調査対象地 (1/3000)



土層柱状模式図

9. 高浜公民館試掘調査

調査場所 宮崎市高岡町高浜

調査期間 平成21年6月30日

調査原因 防火水槽建設

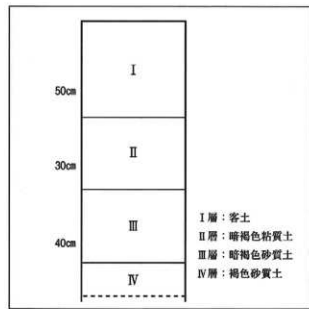
調査結果 埋蔵文化財なし

立地 高岡町市街地の対岸の河段丘下にある高浜公民館の駐車場である。江戸時代より観賞用として植えられた梅は「月知梅」と呼ばれ、花の咲く春先は毎年多くの観光客を集めている。また、同地には当時から神社があったと伝えられており、神社関連の施設が存在する可能性があるほか、公民館の脇には江戸時代中期以降の墓も集積されており、墓地为計画地まで広がっていた可能性も考えられる。計画地は、それら近世の埋蔵文化財が確認される可能性が考えられたため、開発に先立ち、試掘調査を実施した。

調査結果 調査は重機を用いて行った。地表面下は客土が50cmの深さまで続いていたが、その下位は暗褐色の砂を含んだ粘質土が認められた。この層の深さは70cmほどであり、層の上位は焼土や炭、軽石片が混入しており、埋蔵文化財を包含する可能性を窺わせたが、遺物は認められなかった。更に下位は地山と思われる青灰色の砂質土に達した。遺構が検出される可能性を考え、トレンチを15m×3mに拡張すると共に、層の下面で検出作業を行ったが、遺構は確認されなかった。上層の客土は洪水時浸水しないように、公民館全体に嵩上げが行われたと考えられる。またその下位の層は埋蔵文化財を含む可能性が考えられたものの、結果として生活痕跡は確認されなかった。



調査対象地 (1/3000)



土層柱状模式図

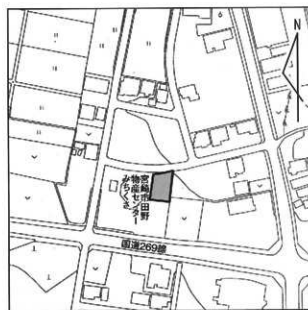
10. 田野町南寺町試掘調査

調査場所 田野町南寺町
 調査期間 平成21年7月1日
 調査原因 消防設備建設
 調査結果 埋蔵文化財なし

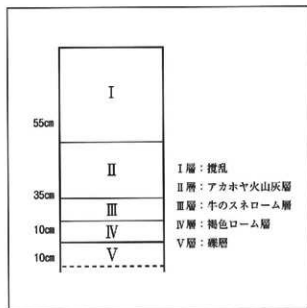
立地 田野市街地は松山川右岸の台地にあたる。台地は比較的平坦だが、七野地区や前平地区、八重地区など周囲の台地に比べ標高が低いための、埋蔵文化財包蔵地の分布は希薄であり、南部には南原遺跡、崩ノ上遺跡が立地する程度である。今回調査原因となった消防倉庫の新設予定地は、その南原遺跡の隣接地にあたることから、開発に先んじて、試掘調査を行った。

調査結果 地表面下は砂利層が20cmほど堆積していた。その下位は、本来地表面下に堆積していたと考えられる黒色土が認められた。Tr.1からは、その下位にアカホヤ火山灰層を確認した。層の上で検出したが、遺構は確認されなかった。更にアカホヤ火山灰下位において、牛のスローム層、早期ローム層を確認した。しかしいずれも10cm程度の堆積に留まり、層中には埋蔵文化財は確認されないまま、指頭台の礫層に到達した。Tr.2は黒色土下位まで瓦礫が大量に確認されたため、現代のゴミ穴と判断した。この攪乱は礫層に至るまで地中深くまで入り込んでいた。

今回調査したトレンチでは、アカホヤ火山灰下位の堆積層がごく僅かであった。このような堆積状況は、田野盆地中央部でこれまで行われた試掘・確認調査において共通した傾向である。これは南原を中心とした田野盆地中央部が、アカホヤ降灰直前まで清武川が何度も流路を変えた影響で土層が消失し、礫層が選ばれてくる状態であったことを示している。そのため、当地域におけるアカホヤ火山灰降灰前の埋蔵文化財の残存はきわめて可能性が低いと考えられる。



調査対象地 (1/3000)



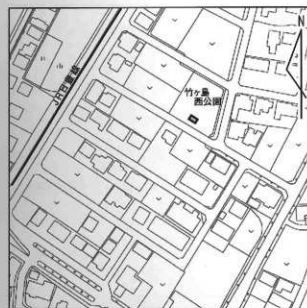
土層柱状模式図

14. 竹ヶ島第1遺跡確認調査

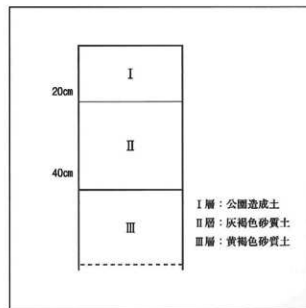
調査場所 宮崎市吉村町
 調査期間 平成21年7月14日
 調査原因 防火水槽建設
 調査結果 埋蔵文化財なし

立地 日向灘沿岸における砂丘（浜堤）の形成は、石崎川～新別府川間で顕著であるが、佐土原町域では2列の連なりを見ることができ、東側は石崎浜として知られ、高く明瞭な砂丘が形成されるが、西側は微高地状であり不明瞭である。計画地である熊田遺跡は、この西側の砂丘列上にある。周辺には中溝遺跡や伊賀給遺跡等、弥生時代以降の大規模遺跡が連なる。今回、防火水槽設置が計画された公園は石崎地区にあり、既に区画整理による開発が行われた後だが、区画整理前の地形が不明であり、造成により削平が行われていなければ、事業地においても隣接地同様の埋蔵文化財が確認される可能性を考え、開発に先立ち、事前の埋蔵文化財試掘調査を実施した。

調査結果 公園内で重機の侵入が不可能であったため、調査は人力で行った。地表面下20cmまでは公園の造成土が見られ、その下位からは燃えた木片や空き缶等、瓦礫を含む客土が認められた。その下位より認められた灰褐色砂質土は粗粒であり、細粒である暗褐色砂質土と互層を形成していることから、区画整理前の自然堆積層と思われるが、遺物は確認されなかった。この堆積は約40cmの堆積を残して黄褐色砂質土に達した。上面で検出を行ったが、遺構は確認されなかった。旧地形を見ると、砂丘上は小規模な凹凸が顕著であることから、今回調査した地点は窪地状を呈する部分であったと考えられ、黄褐色砂質土上位の自然堆積層は確認したものの、埋蔵文化財は確認されなかった。



調査対象地 (1/3000)



土層柱状模式図

18. 下北方遺跡群確認調査

調査場所 下北方町大宮
 調査期間 平成21年8月4日
 調査原因 消防設備建設
 調査結果 埋蔵文化財なし

立地 計画地は、旧石器時代から近世にかけてほぼ開断なく営まれた、宮崎市最大の複合遺跡である下北方遺跡群の北部に位置する。大宮公民館は、平和台公園の立地する丘陵部と下北方台地を分断するように刻む開折谷上に立地しており、谷筋の先には観音寺池がある。

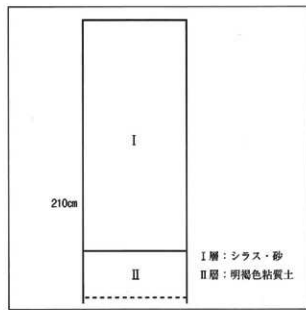
特に古代以降、地域の中核となる施設が残された台地上と違い、自然流路上であることから集落が確認される可能性は考えにくいものの、根根を挟んだ南側の開折谷の末端は、弥生時代の木製農具が出土した垣下遺跡が隣接していることから、水田に関連した埋蔵文化財が確認される可能性も視野に入れ、開発に先立ち試掘調査を実施した。

調査結果 調査地は周辺の道より一段上がっていることから、1m程度の嵩上げが予想されたため、掘削は重機を用いた。予想通り、砂利による舗装の下位は砂やシラスによる客土が認められた。層は著しく軟質であり調査中における崩落も激しかったが、この堆積は1mを過ぎても続いていた。2mを超えた地点で、漸く地山である明褐色の粘質土を湧き水と共に確認したが、粘質土はその色調からシラス下位に堆積するものと判断した。この層が旧来の地山である可能性を考え、上面で検出も試みたが、遺構は全く確認されなかった。

計画地の堆積状況は、大規模な削平を行った後、瓦礫や客土の充填が行われ現在の地形となつたことを示している。公民館建設時に行われたこれらの開発により、文化層は消失したと考えられる。



調査対象地 (1/3000)



土層柱状模式図

22-48. 楯遺跡確認調査

調査場所 吉村町江田原
 調査期間 (1回目)平成21年8月27日
 (2回目)平成22年3月11日
 調査原因 宅地建設

調査結果 埋蔵文化財なし

立地 事業地は宮崎平野における第1砂丘の南端部付近にあり、現在では楯中学校の校内として利用されている。予定地のうち、楯中学校の校舎のある道路南側は、周知の埋蔵文化財包蔵地「楯遺跡」の域内にあたり、宮崎平野の弥生時代前期を知る上で重要な資料が出土している。調査をはじめ楯中学校の校舎間にある駐輪場中①に行ったが、計画の変更に伴い中学校の運動場内中②にも行った。

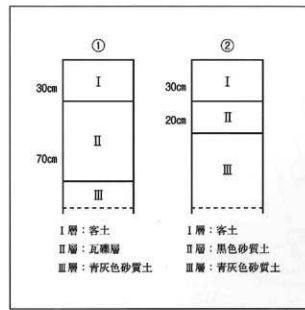
調査結果 ①は人力で行った。予定地は地表下30cmまでは整地による客土があり、その下は粘質土と砂層の混じった、瓦礫を多量に含む攪乱層が続いた。恐らく中学校を造成する際の客土であろう。その下位は地山と思われる青灰色の粗粒質な砂層に至った。その面においても、遺構は全く確認されなかった。

②は重機を用いて行った。予定地は30cmまでは運動場としての客土が認められた後、黒色砂層の堆積が約20cm確認された。これは造成前の攪乱層と考えられ、ガラスやブルーシートの破片等が確認されるばかりであった。その下位は地山の青灰色砂層に達した。

楯中学校における遺跡分布は不明であるが、中学校周辺の調査では、校舎を建替る際に土地改良の痕跡が確認された。その際、今回の予定地を含む楯遺跡の一部は消失したと考えられる。ただ、その改良がどの程度であったか調べる必要があること、運動場の北側は土層の堆積が比較的良好に残存することから、今後も注意を払う必要がある。



調査対象地 (1/3000)



土層柱状模式図

26. 下屋敷第1遺跡確認調査

調査場所 佐土原町船野

調査期間 平成21年9月7日～平成21年9月8日

調査原因 農免農道建設

調査結果 埋蔵文化財あり

立地 船野型細石刃核の標識遺跡となった船野遺跡を始め、多くの旧石器・縄文時代の遺跡がする船野地区は、石崎川支流による浸食を受けた台地上に位置する。下屋敷第1遺跡は台地が最も幅広となった地点にあり、バイパス建設時にも発掘調査が行われ、旧石器・縄文時代の遺物が出土した。今回の開発予定地は、下屋敷第1遺跡の東端部にあたる。また、下図の北側にあたるが、船野台地とは谷を挟んで北側の仲間原台地端部に分布する永谷遺跡も計画地に含まれるため、開発に先立ち、事前の試掘調査を行った。

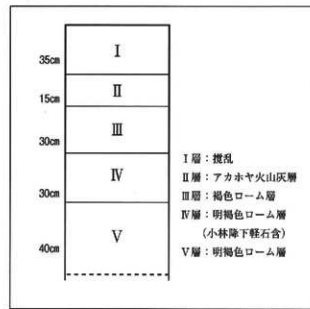
調査結果 調査は人力で行った。永谷遺跡の域内に設定したTr.1からは、耕作土が20cm堆積し、その下位は粘質土と耕作土による床土があり、その下位は宮崎層群の岩盤であった。大規模な削平の後に畑土が入り入れられたことが明らかとなった。

船野台地上の拡幅部分は、南側は地表面にアワオコシのブロックが露出するなど、天地返しの際跡が明瞭であったため、北側にTr.2～4を設定した。このうち最も北のTr.2はアカホヤ火山灰層以下の堆積層が良好に堆積しており、掘り進めたところ小林降下軽石層付近から礫3点が出土した。南隣の畑に設定したTr.3は、上位75cmは天地返しにより消失していたが、小林降下軽石層下位のローム層は残存しており、小林降下軽石層下位より石器1点が出土した。更に南側に設定したTr.4は、天地返しはなかったものの、トレンチャーが小林降下軽石層下位まで縦横に何度も行われており、堆積層はごく一部を残して破壊されていた。

調査の結果、下屋敷第1遺跡の範囲が従来より東にも広がることが確認された。



調査対象地 (1/3000)



土層柱状模式図 (Tr.3)

33. 本郷公民館試掘調査

調査場所 本郷南方

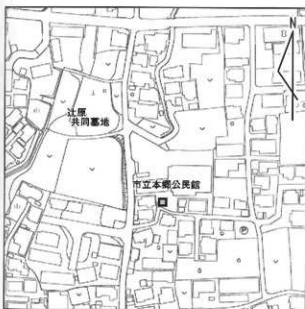
調査期間 平成21年10月2日

調査原因 宅地建設

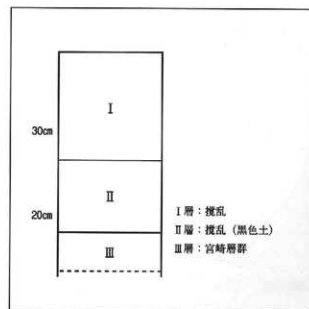
調査結果 埋蔵文化財なし

立地 計画地は、宮崎空港や水田を含む平野部と、住宅街の広がる丘陵部の中間に当たる。埋蔵文化財包蔵地は丘陵の東側斜面上に多く分布するが、計画地である本郷公民館は丘陵裾野に帯状に広がる微高地とはさほど高低差がなく、地形的な連続性が窺えたことから、周辺に分布する埋蔵文化財包蔵地が広がる可能性を考え、開発に先立ち、試掘調査を実施した。

調査結果 人力で掘削を行ったところ、黒色土と灰褐色粘質土による攪乱が30cmほど堆積し、その下位は黒色土を主体とした層が20cmほど認められた。この層は色調が不安定であるため、上層同様の攪乱と考えられる。その下位は宮崎層群を確認した。上面で検出したところ、バックホウで掘削した際につけられたバケットの爪痕が確認された。現地地形では、計画地は微高地上に孤立しているが、元来は西側から伸びた丘陵の一部であり、道路建設により分断された上、宮崎層群まで削り取られた結果、現在のような地形となったと考えられる。



調査対象地 (1/3000)



土層柱状模式図

42. こどもの国公園遺跡確認調査

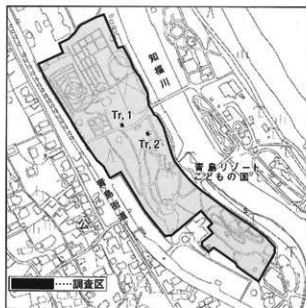
調査場所 宮崎市加江田
 調査期間 平成21年12月22日
 調査原因 リゾート施設建設
 調査結果 埋蔵文化財なし

立地 計画地は日向灘に面し、奇形波蝕岩として名高い「鬼の洗濯板」や青島等、観光名所に隣接する遊興施設「こどもの国」園内に立地する。園は知福川沿いの低地と、松浜から続く砂地の段丘上に分かれている。園内は周知の埋蔵文化財包蔵地「こどもの国公園遺跡」が分布する。遺跡の詳細はその範囲も含めて不明だが、園の西側には弥生時代の散布地である「こどもの国西遺跡」が立地しており、周辺地形からの連続性も考えられる。その場合、埋蔵文化財の分布は丘陵上と言うことになるが、丘陵部は植物園と駐車場により大半を喪失している。園内はこれまでに開発が幾度も行われたため残存状況も不明だが、まだ開発の及んでいない地点に残存する可能性を考え、開発に先立ち、確認調査を実施した。

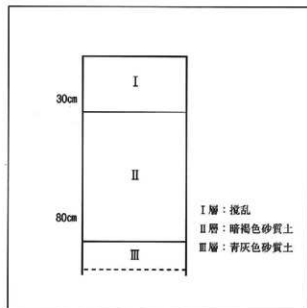
調査結果 調査は人力で行った。地形の残存が考えられ、かつ遺跡が分布している地点として、台地上では植物園の隣接地にTr.1、観覧車のあった低地の最深部にTr.2を設定した。

Tr.1は暗褐色砂質土が認められたが、この層は攪乱層でありビニル紐等、現代の廃棄物が混入していた。その下位は地山である、非常に軟質な青灰色砂質土に到達した。上面で検出作業を行ったものの、遺構は確認されなかった。Tr.2は舗装時の客土と思われる小礫層を40cmほど確認した後、地山と見られる粘質土と混合した青灰色の砂質土に到達した。ここでも検出作業を行ったが、埋蔵文化財は確認されなかった。

「こどもの国遺跡」はその名のとおり遊園地内に立地する遺跡である。ただし実際採集された場所は定かではない。そのため今回は立地上可能性のある部分に調査を行ったが、埋蔵文化財は確認されなかった。



調査対象地 (1/3000)



土層柱状模式図

46. 佐土原城跡確認調査

調査場所 宮崎市佐土原町上田島追手
 調査期間 平成22年3月1日～3月5日
 調査原因 公民館建設
 調査結果 埋蔵文化財あり

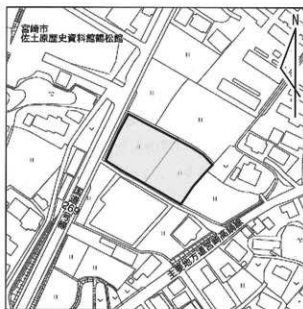
立地 開発予定地は国指定史跡佐土原城跡に隣接する。安政年間に作成されたとされる「佐土原城下図」では、佐土原城正面に立ち並ぶ武士の居住地となっており、渋谷空工、石谷寛の名を見ることができる。また、南側は佐土原城の麓から発する外堀が東西に伸びている。そのため、今回開発に先立ち、確認調査を実施した。

調査結果 調査区は2筆に分かれている。どちらも東西方向にトレンチ(試掘坑)を2本ずつ設定した。

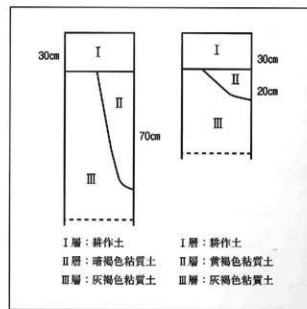
Tr.1は柱穴17基(径20～30cmが10基、径約40cm以上が7基)、溝2条が検出された。西側は黄褐色の粘質土が確認され、多くの遺構が検出されたが、東側は試掘坑沿いに溝が確認された。幅2m以上、深さは70cm程度であり、底面は青灰色の粘質土が堆積していたことから、水が流れていたと考えられるが、底面・埋土共に遺物の出土はなかった。西側の黄褐色の地山が認められる部分からは柱穴が確認され、中央付近には径、深さ共に40cm、約70cmの間隔で並ぶ柱穴が検出された。他の遺構はいずれも浅く、上層は既に削平されたと考えられる。

Tr.2は、南側は黄褐色の地山が確認されたが、北側に暗黄褐色の攪乱層の堆積が認められた。層中の遺物は瓦や陶磁器など近世の遺物であり、より新しいものは確認されなかったため、近世段階の造成の可能性を考え、上面で検出を行ったが、遺構は確認できなかった。

調査区は全体的に表土が薄く、西から東に向かって緩やかな傾斜が認められた。東側からは掘や屋敷の柱穴と思われるビットの並びを確認することができた。対して西側は造成土により調査が不十分なままであったが、本来は東側同様、多くの柱穴を含むと考えられる。



調査対象地 (1/3000)



土層柱状模式図

19・23・40. 下敷遺跡確認調査

調査場所 宮崎市吉村町

調査期間 (1回目) 平成21年8月5日
(2回目) 平成21年8月31日～9月1日
(3回目) 平成21年12月3日

調査原因 土地区画整理

調査結果 埋蔵文化財なし

立地 下敷遺跡は、前田川が北上し新別府川へと合流する地点にある左岸微高地上に立地する。前田川は近年の河川改修によって整備されており、それ以前は水田中にこの地区周辺が島状に隆起した地形であったと言われている。周知の埋蔵文化財包蔵地「下敷遺跡」の域内にあることから、開発前に埋蔵文化財調査を行うこととなった。なお、事業の都合上、準備が整った段階で調査を行う必要があったため、南から北へ三回に分けて行った。

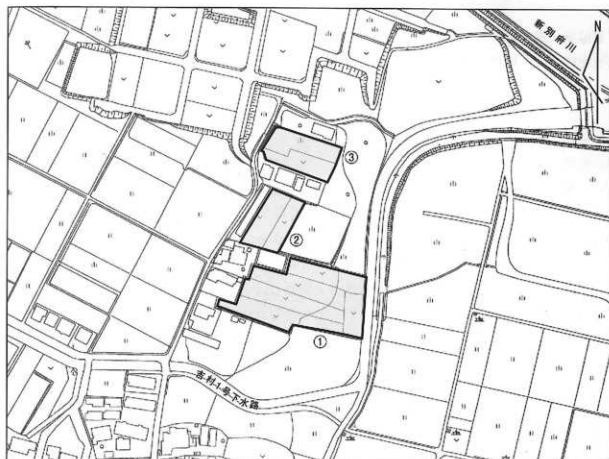
調査結果 調査は三度も重機によって行った。

1回目(図中①)は、最も南の、備考地が最も広くなった地点に行った。畑土下位に暗褐色の砂質土を確認したものの、黄砂すら確認されることなく青灰色の砂層に到達した。いずれのトレンチからも、遺構は確認できなかった。

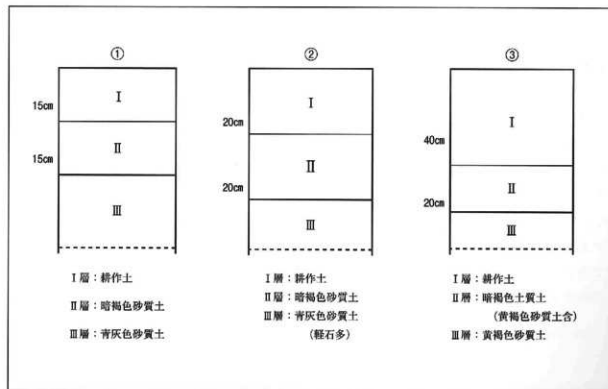
2回目(図中②)は、一度目の北隣にある畑地に行ったが、畑土下位から軽石を大量に含んだ青灰色の砂層を見ることとなった。現代のゴミ穴以外に人為的掘削の痕跡が見つからないばかりか、ここでも黄砂も確認されなかったことから、現地は全体的に大規模な削平が行われたと考えられる。

3回目(図中③)は最も北の畑地で行われた。これまでの調査と違い、いずれの調査区からも、耕作土下は畑の床土と思われる黄砂を含んだ攪乱層があり、その下位で黄砂に達した。黄砂上面に堆積する暗褐色土はここでも認められなかった。この黄砂上面で検出を行ったものの、確認できたのは耕作土から掘り込まれたプラスチック片等を含む現代の攪乱のみであった。

平成21年度に行った東部第2地区区画整理事業における下敷遺跡の確認調査は、3回調査を行ったものの、遺物・遺構共に全く確認されなかった。畑の耕作者によると、ここはかつて松林であり、丘陵が存在したが、河川改修時に松を切り出すと共に、畑地に転用できるよう、丘全体を削平し平坦地を作り出したそうである。調査で確認した土層消失はその影響であろう。民家の一角には江戸時代中期に相当する墓が集められていることから、少なくとも近世の墓は存在したのだろうが、遺構検出面である黄砂や遺物包含層である暗褐色土がほぼ消失していることから、当地における埋蔵文化財もその削平の際にほぼ消失したと考えられる。



調査対象地 (1/3000)



土層柱状模式図

28・38・44. 宮ヶ追遺跡・古城第2遺跡確認調査

調査場所 佐土原町上田島田中

調査期間 (1回目) 平成21年9月14日～15日

(2回目) 平成21年11月10日～11日

(3回目) 平成22年2月12日～18日

調査原因 農地保全整備

調査結果 埋蔵文化財なし

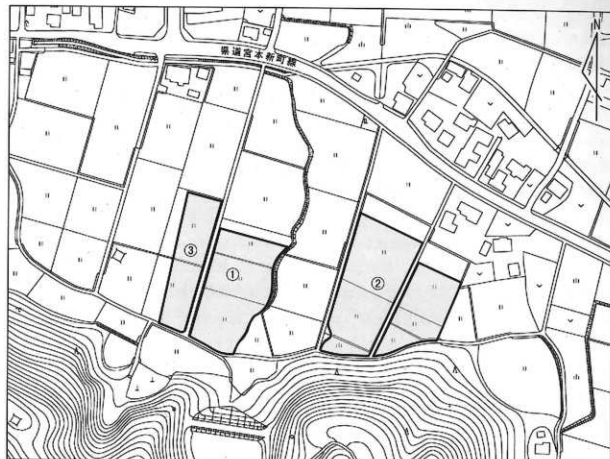
立地 事業地は、一ツ瀬川右岸の丘陵から伸びる傾斜面上に位置する。一ツ瀬川が豪雨の度に流路を変えていたのに対し、この斜面は安定しており、生活環境に恵まれていたと考えられる。斜面上は丘陵の開析谷からのびる谷が一ツ瀬川に向かって伸びており、この谷を境に東に古城第2遺跡、西に宮ヶ追遺跡が分布する。農地保全整備事業が行われるにあたって、まず平成22年度より工事の始まる谷の西側、宮ヶ追遺跡部分を調査し、その後平成22年度秋より工事予定の谷の東側、古城第2遺跡部分を調査した。また、その後行われた宮ヶ追遺跡の発掘調査において、遺跡の広がり調査区西側まで認められたため、この部分を平成22年度に発掘調査する事とし、その遺跡の広がりについても確認調査を実施した。

調査結果 1回目の調査では、表土除去後、田の床土下位において既に遺構が認められた。斜面を段丘上に開墾し水田を開いたためと考えられ、場所によって間に灰褐色の粘質土を挟んでいたが、この層からは古墳時代～古代にあたる多量の遺物が認められた。確認された遺構は溝や柱穴、土坑であり、多くの遺構が事業地内に分布していることが確認された。

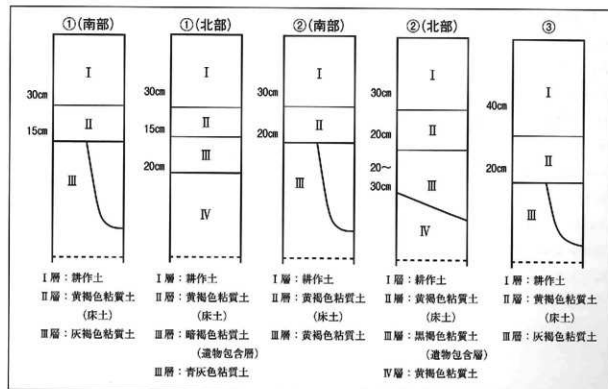
堆積状況は2回目の調査でも同様であったが、地山の色調は黄褐色に近く、暗褐色の毎度で検出される遺構の判別が比較的容易であると共に、柱穴を中心とした遺構の密度が非常に高いことも確認された。また、北部及び東部の境界付近は地山が下っており、その上から暗褐色の、遺物を非常に多く包含する層の堆積が確認された。

3回目の堆積状況、遺構の分布も東側同様であった。事業地は西側の谷へと下る途中にあるためか、遺構の分布は東側の方が密度が濃いようであった。なお、調査の時期上、調査中の湧き水が激しかった。

3度にわたった確認調査ではいずれも埋蔵文化財が確認された。このうち、圃場整備により間層を置かずに削平される地点については本調査の対象となった。その結果、古墳時代から古代を中心とした大規模な集落が確認された。遺跡が営まれた時期、この地点は佐土原でも中核的な場所であったばかりでなく、当時の土地利用、集落形勢を知る上でも重要な発見となった。その一方で湧き水の手測や遺跡全体の判断について、確認調査の結果がどのような影響を招くか痛感した調査でもあった。



調査対象地 (1/3000)



土層柱状模式図

16・20・45. 下北方遺跡群確認調査②

調査場所 宮崎市下北方町花切

調査期間 平成21年7月21日～7月29日（発掘調査）

平成21年8月11日～8月13日（発掘調査）

平成21年11月27日（レーダー探査）

平成22年1月25日～2月5日（発掘調査）

調査原因 土地売却にかかる事前調査

調査結果 埋蔵文化財確認

立地 調査対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「下北方遺跡群」の一面にあたる。この下北方遺跡群は、大淀川下流左岸に発達する垂水台地（最高点120.8m）から、南方に派生した山後の南縁に位置する比較的平坦な丘陵（標高20～40m程）の上に立地する。宮崎市内で最も遺跡が集中する一帯で、旧石器時代後期から近世の遺跡が確認される複合遺跡である。弥生時代の環濠集落である下郷遺跡や県指定史跡「下北方古墳群」が存在する他、近年では、調査において古代瓦の出土も顕著になり、古代寺院、官衛施設の存在も想定されるようになってきた。

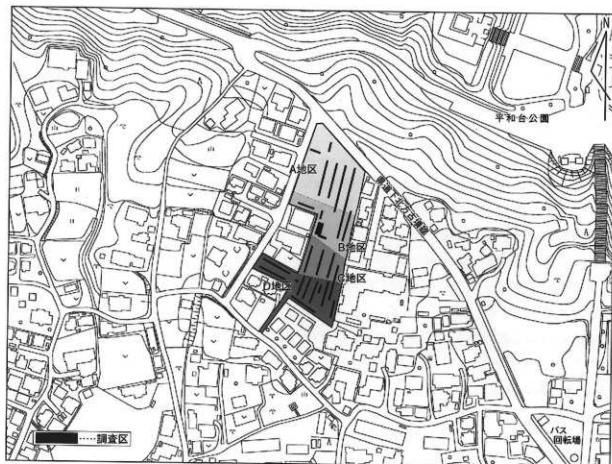
今回の調査対象地は、遺跡群の中でも比較的標高の高い25～35m付近にあり、調査対象の総面積は約6500㎡におよぶ。敷地は南北に長く、北端から南端まで約10mの比高差があり、本来は北から南に向かって下り勾配の緩やかな傾斜地であったと考えられるが、後世の造成により、現状は四段に削られている。また、今回の対象地最高位と同等標高35m付近は、県指定史跡下北方古墳群15号の指定を受けるが、現在はその形状を視認することができず、その位置を確認することも目的とした。

調査結果 確認調査は、3回に渡り合計23箇所調査区を設定し、指定墳の位置を確認するため、宮崎県教育委員会によって地中レーダー探査も実施された。調査結果については、便宜上、対象地の現状地形をベースに北からA地区、B地区、C地区、D地区の4地区に別ける。

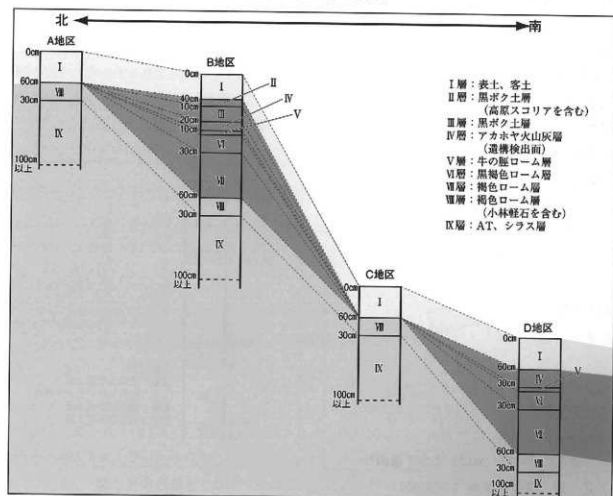
調査の結果、各地区で特徴的な地山の遺存が見られ、A地区とC地区では表土（客土）を除去後、小林軽石を含む褐色ローム層（Ⅲ層）もしくはシラス層（Ⅸ層）が露頭し、遺構の遺存が確認できなかった。本来堆積すべきそれ以上の土壌は後世の造成により、削平されたことが原因と考えられる。

対照的にB地区とD地区では、良好な土壌の遺存が認められ、表土（客土）直下に高原スコリアの混入する黒ボク土層（Ⅱ層）以下が堆積する。それに伴い古墳時代～古代期の竪穴建物（Ⅷ～Ⅹ層、柱穴群、溝状遺構）が確認された。遺構検出面はアカホヤ火山灰層（Ⅳ層）である。特に、B地区においては東西方向に走る幅約5.0mの道路状遺構が確認され、9世紀代の可能性がある。また、D地区の西端の一面は平成21年中に用地の売却が一部行なわれ、個人専用住宅建築計画が上り、それに伴い宮崎市教育委員会では本発掘調査を実施した（下北方花切第1遺跡）。その結果、古墳時代～古代の竪穴建物4軒、土坑墓1基、古代期の溝状遺構1条が検出された。

宮崎県教育委員会による地中レーダー探査はA地区で実施した。かつて存在していた下北方古墳15号の位置を確認することを目的としたが、周溝等古墳に伴う施設（遺構）は確認されず、完全に滅失したと考えられる。これは、A地区での発掘結果でも述べたように、相当期の遺構が構築される地山が、後世の造成により削平されたことが、原因と考えられる。このレーダー探査結果と確認調査の結果を基に、県指定史跡下北方古墳15号は平成22年9月9日に史跡指定が解除された。



調査対象地 (1/3000)



土層柱状模式図

29. 島之内試掘調査

調査場所 宮崎市島之内

調査期間 平成21年

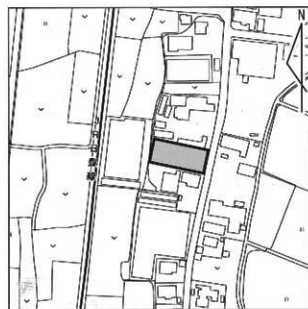
調査原因 共同住宅建築

調査結果 埋蔵文化財なし

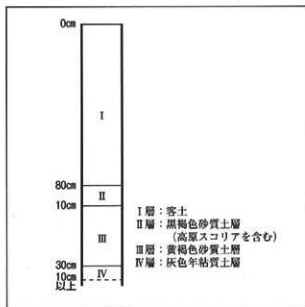
立地 調査対象地は標高約120mの砂堤の南端に近い場所に位置する。この砂堤は、大淀川下流に発達した完新世段丘面群のひとつである下田島I面上に形成されたもので、数多くの弥生時代以降の遺跡が立地する。調査対象地から段を持って1m程低い西側隣接地には今回の試掘調査実施の根拠ともなった古墳時代の散布地「六ツ江遺跡」がある。また対象地と同様の砂丘上には直線距離で約900m北に県指定史跡「住吉村古墳第2号」(円墳指定)があり、対象地と住吉村古墳第2号間には、地形的な大きな隔たりはなく、一帯に相当期の集落の存在を想起させる。今回の調査対象地は農家の一面に共同住宅を建築するに先立ち行われたもので、以前は飼いを放牧していた場所である。

調査結果 調査対象地に3箇所の調査区を設定した。北側に東西方向に長い1.2×7.0mの調査区(Tr.1)、中央に南北方向に長い1.2×8.0mの調査区(Tr.2)、南に東西方向に長い1.2×10.0mの調査区(Tr.3)を設定した。いずれの調査区においても客土が著しく、現地表よりTr.1とTr.2では80cm、Tr.3では180cm以上と分厚く、屋敷地造成の際に入られた可能性が高い。

Tr.1とTr.2では、客土層以下の地山層が確認され、2層目では、遺存が悪いもののいずれの高原スコリア(霧島連山御鉢岳火口起源、10~13世紀頃)を含む黒色砂層が確認され、3層目は黄褐色砂層、4層目は灰色粘質土層となる。過去の砂丘における遺構検出面は3層の黄褐色砂層であるが、今回の調査ではいずれのトレンチにおいても遺構・遺物を検出することはできなかった。今回の調査結果は、調査地周辺における過去の試掘結果と同様に、古代(鎌倉時代以前)以前の地山が比較的安全して堆積し、遺存するにもかかわらず、生活の痕跡が認められない状況であった。



調査対象地 (1/3000)



土層柱状模式図

宮崎市文化財調査報告書 第87集
宮崎市試掘・確認調査報告書

2011年3月

発行 宮崎市教育委員会

